

2017年3月実績概要（メモ）

（2017. 4. 20）

エチレンをはじめ合成樹脂、化成品の生産は前年を上回り伸び率も伸長。

1. 生産動向

イ) エチレン 567, 100トン

前月比 +10.1% (+52, 200トン)
前年同月比 + 7.7% (+40, 500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+10.7%	-
定修要因等	-	+ 6.5%
能力増減	-	+ 0.2%
稼働率変動	▲ 0.6%	+ 1.0%
生産増減率	+10.1%	+ 7.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.6%→当月96.1% ←前年同月95.2%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

平成28年度(会計年度)生産量 6, 286.6千トン 前年度比 ▲7.3%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主として日数の増加からLD、HD、PP、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、トルエン、キシレンなどの11品目がプラスとなった。PS、SM、SBR、BRなどの6品目は主に定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、PP、PS、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、BRなどの13品目がプラス。SBR、トルエン、キシレンなどの4品目は定修規模差等からマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、春の定修入りに伴い定修規模差があるものの主に日数の増加からLD、HD、PPでプラスとなった。PSは定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因からLD、HD、PSでは二桁台の伸び率となった。PPも加えて4樹脂揃ってプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では主に営業日数の増加に伴い出荷量が増加し、LD、HD、PPでプラス。PSは前月の出荷がやや多めであったこともあり当月はマイナスとなった。

前年比では、前年の出荷が原料情勢からの先安観の広まりに伴い低位であった。また、直近の輸入がレジ、加工製品ともに前年の水準を下回っている状況にあり、当月においては、特にフィルム、包装材料関連及び射出成形分野の出荷が増加し4樹脂ともに前年を上回ることとなった。

ハ) 輸出

国内向けの出荷が引き続き堅調に推移している。このため、前月比ではHDが供給量の増加もありプラスとなったが、LDは微増、PPはマイナスとなった。前年比ではHD、PSはプラスとなったが、LD、PPではマイナスが継続している。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HDで増加し、PP、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PP、PSともに上昇した。在庫水準としては、LD、HDではやや高めの水準、PP、PSはほぼ適正からタイトな水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LD	+ 1, 100	2.7	2.9
HD	+ 5, 800	2.5	2.9
PP	▲ 10, 200	2.4	2.5
PS	▲ 3, 600	1.2	1.4

以上